

(5) 東 海



東海地域では、景気は持ち直している。

- ・ 鉱工業生産は持ち直している。
- ・ 個人消費はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 雇用情勢は持ち直している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(―は上方に変更、―は下方に変更)

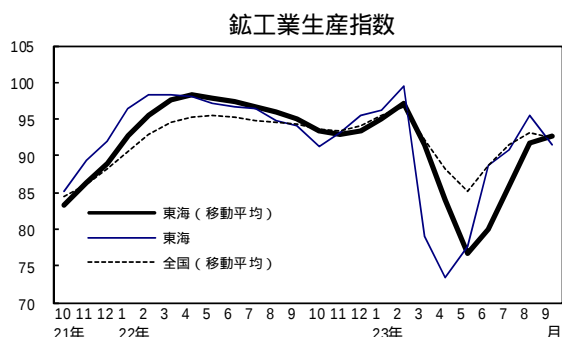
前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 23 年 8 月)	今回 (平成 23 年 11 月)	
景況判断	東日本大震災の影響が残るものの、持ち直し	持ち直し	→
鉱工業生産	東日本大震災の影響が残るものの、持ち直し	持ち直し	→
個人消費	持ち直しの動き	おおむね横ばい	↓
住宅建設	減少	増加	↑
雇用情勢	持ち直しの動き	持ち直し	↑

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は持ち直している。

輸送機械は、乗用車や自動車部品が、サプライチェーンの立て直しにより生産が大幅に増加した。一般機械は、海外経済の回復が弱まっていることなどから、半導体製造装置などが減少し、おおむね横ばいで推移した。電子部品・デバイス、スマートフォン向けは堅調である一方、全体では需要の減退や価格下落の影響などから減少した。プラスチック製品は、自動車生産の回復などから増加した。化学は、医薬品を中心に減少した。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		4~6 月期	7~9 月期	7~9 月期	7~9 月期
輸送機械	37.5	▲25.5	51.2	57.2	4.8
一般機械	12.7	6.3	0.2	▲0.1	6.9
電子部品・デバイス	6.8	▲16.9	▲4.1	0.2	4.5
プラスチック製品	5.4	▲8.0	11.9	14.1	3.6
化学	5.0	▲3.2	▲2.0	▲2.1	6.0
鉱工業	100.0	▲12.7	15.8	17.2	1.2

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

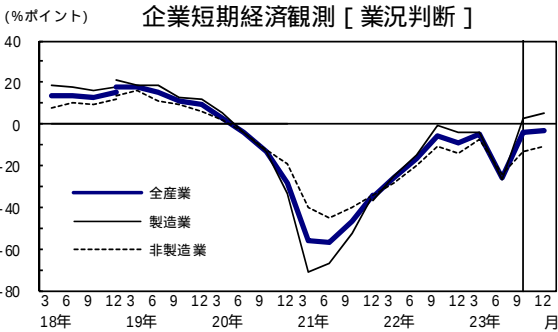
2. 生産指数は東海。出荷、在庫指数は中部。

(備考) 1. 17年=100、季節調整値。

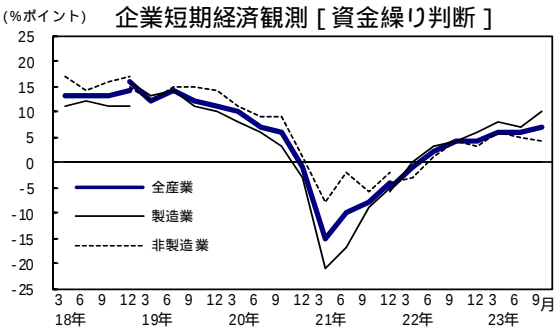
2. 全国及び東海の太線は後方3か月移動平均。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が縮小し、資金繰り判断は「楽である」超幅が横ばいとなっている。

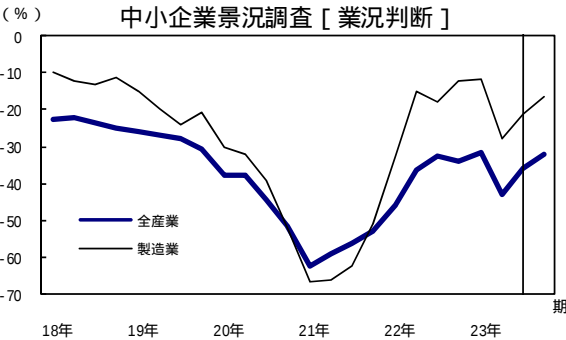
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」 - 「悪い」回答者数構成比。23年12月は予測。
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」 - 「苦しい」回答者数構成比。
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」 - 「悪化」回答者数構成比。23年 期は見通し。
中部地区。

景気ウォッチャー調査 (10月) [企業動向関連 (現状)]

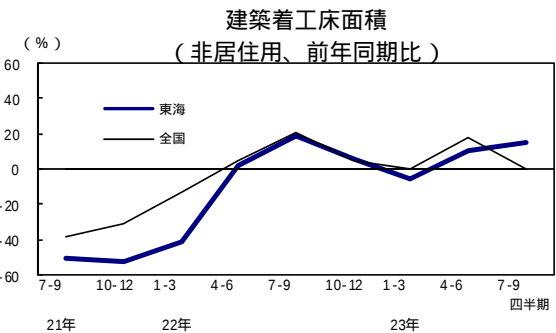
「トラックメーカーの話では、円高の影響もあってか、新車の受注量が減少している。タイの洪水による減産体制の影響もあるが、新車の受注量はそれ以前から減少しているとのことである (輸送業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 23年度の設備投資は前年度を上回る計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資 (9月調査)]

	(前年度比、%)	
	22年度実績	23年度計画
全産業	3.1	7.6 (8.9)
製造業	2.5	11.2 (13.3)
非製造業	3.6	4.7 (5.2)

(備考) 1 . () は前回 (6月) 調査結果。
2 . 22年度以降は、計画はリース会計対応ベース。



2. 需要の動向

(1) 個人消費はおおむね横ばいとなっている。

大型小売店販売額

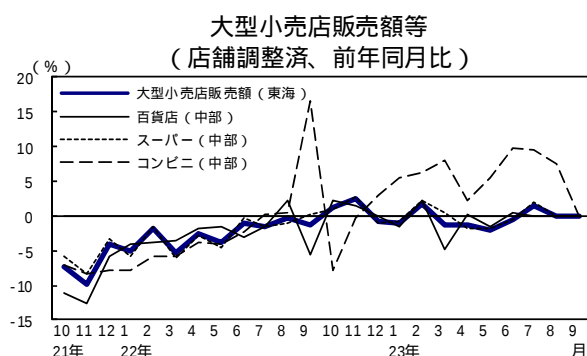
大型小売店販売額は、前年同期比で0.9%減、前期比で0.1%増となった。

百貨店は、7月は、猛暑の影響で夏物衣料や涼感寝具などが堅調だったことなどから、前年並みとなった。8月は、気温低下により夏物衣料が低調であったことなどから前年を下回った。9月は、台風の影響による来客数の減少などから前年を下回った。

スーパーは、7月は猛暑の影響から飲食料品などが好調だった一方、8～9月は気温の低下や台風の影響、生鮮食品が振るわなかったことなどから前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(10月)[家計動向関連(現状)]

「衣料品は気候に応じてまずまずの動きをしているが、生鮮食品の動きが鈍い(百貨店)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



	(前年同月比、%)			
	22年10-12月	23年1-3月	4-6月	7-9月
大型小売店(*1)	0.8	▲0.2	▲1.3	▲0.9
百貨店(*1)	1.0	▲1.6	▲0.3	▲0.7
スーパー(*1)	0.8	0.5	▲1.4	▲1.2
大型小売店(*2)	0.5	▲0.5	▲1.5	▲1.5
(季節調整値)(*3)	(▲2.3)	(1.9)	(▲0.9)	(0.1)
乗用車(*4)	▲29.1	▲22.9	▲36.9	▲18.2
(季節調整値)(*4)	(▲33.3)	(7.6)	(▲19.4)	(38.3)

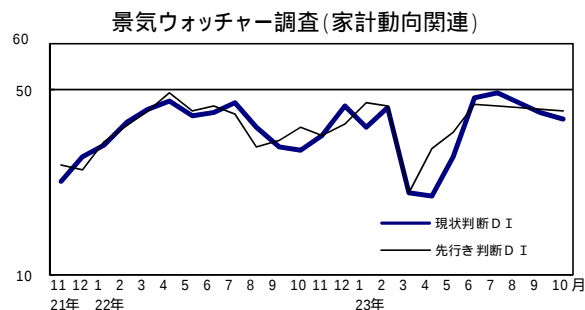
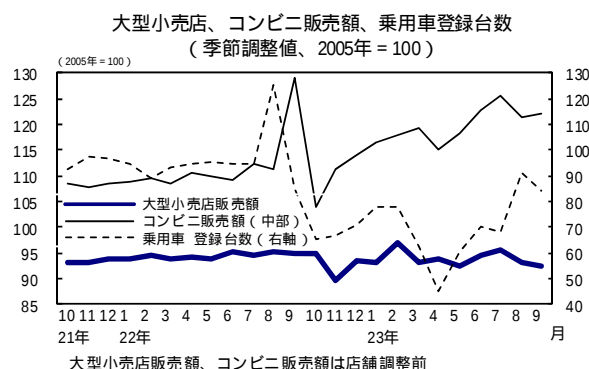
(備考) 1. 店舗調整済、前年同月比(%)。百貨店、スーパーは中部

2. 店舗調整前、前年同月比(%)

3. 店舗調整前、前期比(%)

4. 乗用車は新規登録・届出台数

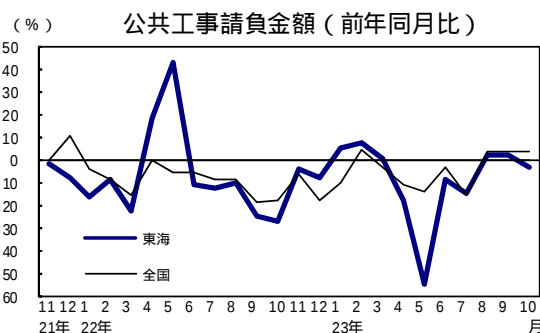
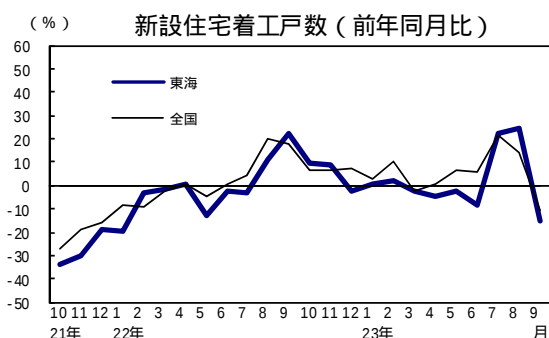
(上段：前年同月比、下段：前期比、%)



(2) 住宅建設は増加している。

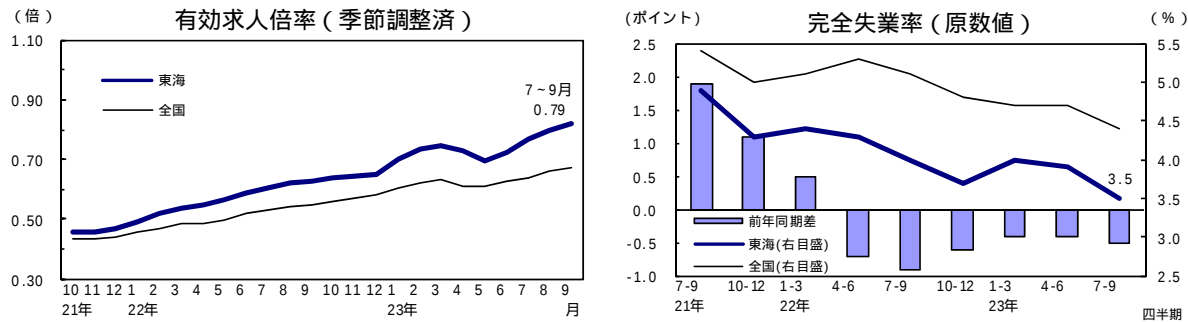
持家、貸家、分譲が前年を上回ったことから、増加している。

(3) 公共投資は23年度累計でみると前年度を下回っている。



3. 雇用情勢等

- (1) 雇用情勢は持ち直している。
有効求人倍率及び完全失業率
有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。

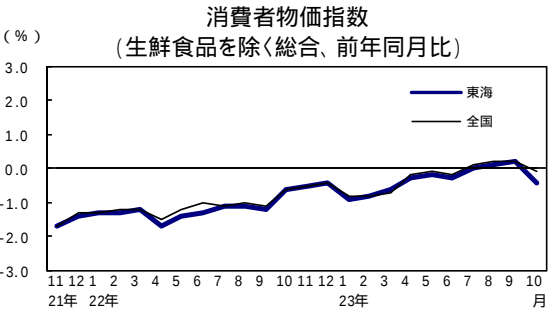


景気ウォッチャー調査 (10月) [雇用関連 (現状)]
「自動車産業以外の産業でも、前年と比べて求人に対してかなり意欲的になっている (職業安定所)」など、「やや良くなっている」とする回答が多くみられた。

- (2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。
(3) 消費者物価指数は上昇に転じている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	22年10-12月	23年1-3月	4-6月	7-9月	23年10月
倒産件数	338	424	410	310	114
(前年比)	▲10.3	16.8	25.4	▲7.2	▲10.2
負債総額	560	808	1,133	585	206
(前年比)	▲32.8	40.7	93.9	▲40.1	51.3



- 景気ウォッチャー調査 (10月) [合計 (特徴的な判断理由)]
- <現状>
- ・新型車の発売効果により、店頭への来客数は増えている。しかし、客の財布のひもは固く、商談は苦戦している (乗用車販売店)。
- <先行き>
- ・タイの洪水の影響により、輸出品の出荷調整が始まっている様子である。この影響で、今後はやや悪くなる (輸送業)。

